

11代の景行天皇の御代の事でした。ヒシロのミヤは、纏向遺跡のところでは、

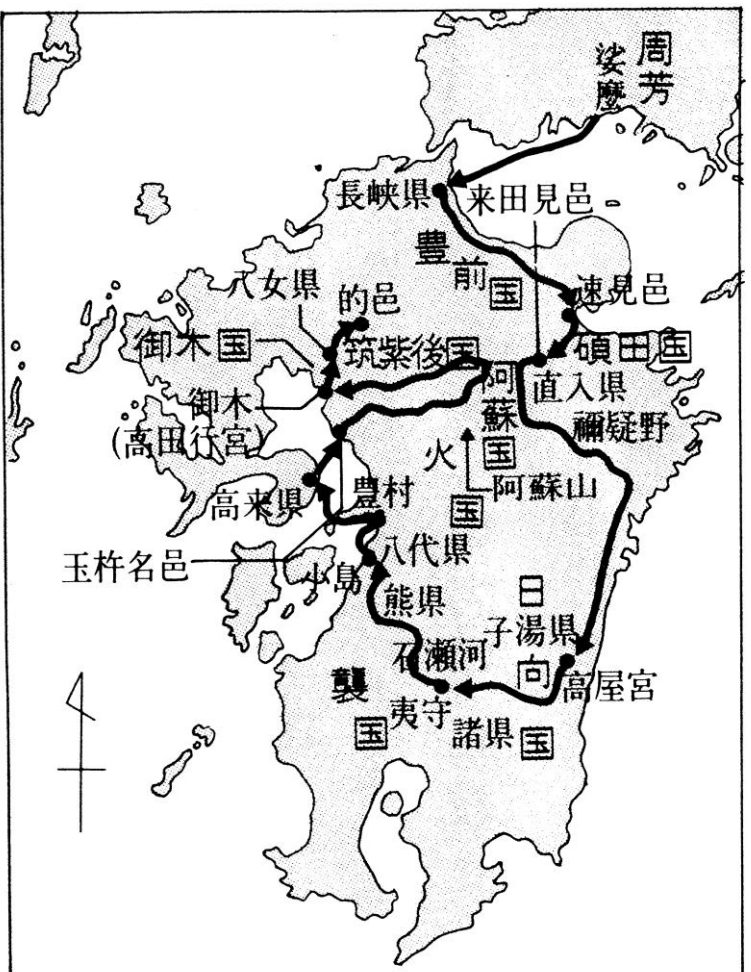
「凡」の巻向駅の近くです。「纏(マトイ)」の漢字は、読みにくい字ですね。

ラシロワケのスヘラギは、漢字時代になって景行天皇と、贈り名が付けられました。景行の「景」は景観のところを眺める意味です。九州の平定に巡り行かれたスヘラギです。考古学の発掘の時代と照合が、し易い時代になって来ました。

豊かさが行き渡って、「アメのミチ」から乖離します。ミチと豊か過ぎの相克です。

現代にも、定年後の「きょういく」と「きょうよう」の大問題が、皮肉にも起きて来たのでした。暇過ぎて暇過ぎてです。また、ネットで何でもできてしまって、精神疾患を生じるようにもなりました。人生100歳時代を迎えて、豊かさの極みでド反転と言えましょう、か。新たな展開の新時代です。

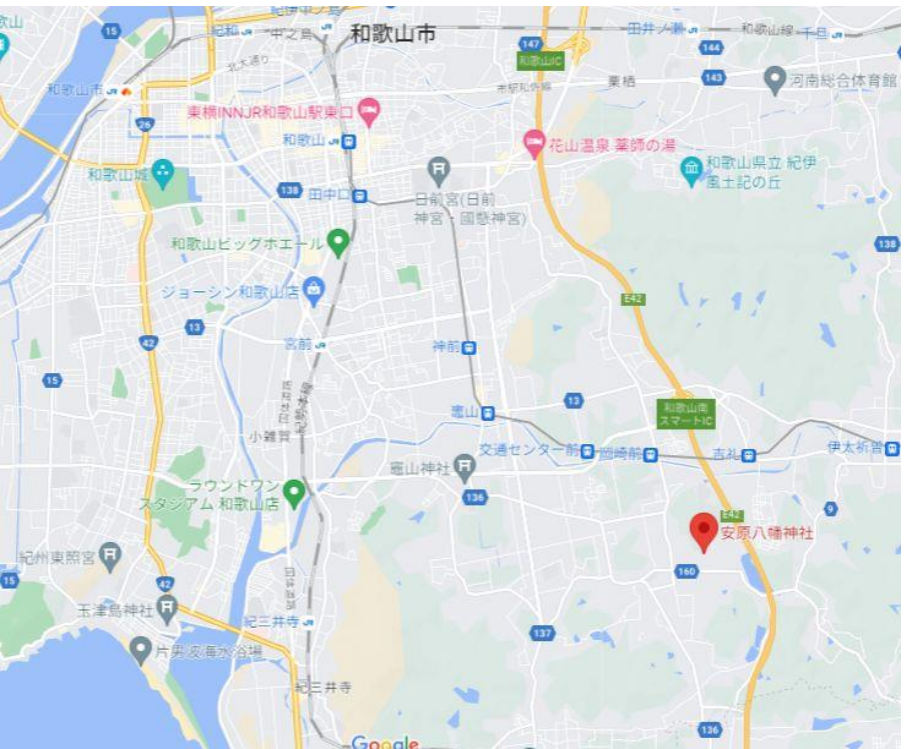
何はともあれ、お元気なラシロワケさま(景行天皇)、81歳でご即位をなさいました。それからの九州遠征です。



景行天皇九州巡幸図

92歳の時に
出征なさいます。

99歳の時にミ
ヤコ(マキムキの
ヒシロのミヤ)に
ご帰還なさいまし
た。



井口は、キのクニのアヒカシハラ（現・和歌山市相坂（そうざか）、松原付近）に9年住んでカミマツリをしますのでした。そのうちに、キのウチマロの娘のヤマト・カケヒメを娶ってタケウチマロ（漢字文献の武内宿禰）が産まれます。産湯の井戸は現代にも残されていて、丁寧に保存されています。（のちの、7代將軍の徳川吉宗の産湯もこの井戸の水を使ったと伝えられます。和歌山市松原の安原八幡宮の奥宮の武内神社）

38・8 4年（アスス791年）のキサラ（2月）モチ（満月）に、ヲシロワケさん（景行天皇）はミノ（岐阜）にミユキ（行幸）をなさいます。それは、トミ（臣）達が言うのでした。

「ミノに良い娘さんが居ます。ヤサカ・タカヨリの娘さんです。ココナ（菊）を切り植えて楽しむので「コリミヤ」と呼ばれ

ています」

ヲシロワケさんは、此れを得んと思われました。

そこでミノ（美濃）へのミユキです。ミノのタカキタのタカヨリのココリのミヤにお着

きになったヲシロワケさんは、景勝のイクス（池）を望まれます。（可児市久々利には、クリの宮跡が保存されています。泳宮くぐりのみや遺跡）そこにさし覗くオトヒメを見止められて、ヲシロワケさんはお召しになりました。

さて、オトヒメさんは考えられます。（ヲシロワケさん84歳）

38・11 「イセのミチに通えるノリもツヤならず」

そこで、ヲシロワケさんに申し上げるのです。

「ヤツカレ（私）はツギを好みません。ですので、ミアラカ（宮中）に召されるのは決して良いことでは御座いません。

わたくしの姉の名はヤサカイリヒメでして、スガタもすべて良いです。キサイのミヤに召されると、姉はミサホも成ることで御座います。」

キミは、オトヒメの言葉をお聞き入れになりまして、姉のヤサカイリヒメを召されます。

38・13 ネシモ（11月）1日にマキムキのヒシロのミヤに帰宮されまして、ヤサカイリヒメはウチメとしてミヤに入られます。

38・13 5年（アスス792年）のネシモ（11月）15日の日の出に、ヤサカイリヒメさんはミコ（皇子）をお産みになります。ワカタリヒコさん（ワカタラシヒコ、後の成務天皇）です。

入内の報告の参拝にキのクニに行ったのが、ヤサカイリヒメの父のヤサカ・タカヨリです。タカヨリは、ヒノマエ（和歌山市、日前宮）に詣でました。

すると、キのウチマロの孫の男の子のタケウチマロ（漢字文献の竹内宿祢）の出産に出席させたのでした。赤ん坊の父親はウマシタケ・ヰコロです。母親はヤマト・カケヒメです。ヰコロは、偶々来たミノ（美濃）のヤサカ・タカヨリに、名付けの親にと命名を頼みました。タカヨリは、赤ん坊に命名して、イムナ（実名）はタカヨシ、ウチから取ってタケウチマロと名付けました。

38-15 その時に、宮中からキジ（使い）がキのクニに着ます。それは、ヤサカイリヒメさんのご出産を告げる使いでした。父のヤサカ・タカヨリにも知らせたいとのことでした。

早速に、タカヨリはミヤコ（首都、マキムク）に上京します。キのウチマロも同行します。そしてウチミヤ（皇居）にコトホキ（お祝い）を言上しますのでした。キミ（景行天皇）はお喜びでイミナの命名を乞われるのでした。ウチマロは、お生れになったワカタリヒコさん（ワカタラシヒコ、後の成務天皇）にウチヒトのイミナを捧げます。ウチヒトは後にヨツギ（世継ぎ）のミコ（皇子）と定まります。ミノ・ウチメ（ヤサカ・イリヒメ）は、ミノ・スケキサキに昇格なさいます。そして、ヰモキヒコ（ススキネ）と、オシワケ、ワカヤマトネ、オオツワケ、ヌノシヒメ、ヌナキヒメ、カノコヨリヒメ、ヰモキヒメ、ヰソサキヒコ、サヒアヒコ、タカギヒメ、オトヒメの多くのミコ達をお産みになりました。

38-18 イワツクワケの子のミツハ・イラツメはミヲのスケとして入内しておられまして、ヰモノメ・クスコをお産みになります。ミツハ・イラツメはウチ・ヲキミに任じられます。

38-19 イソノカミのヰソキネさんの娘さんのヰカワスケは、カンクシと、イナセヒコ、アヘコトをお産みになります。

38-20 タカタ・ウチは、タケコワケをお産みになります。

38-20 ソラ・タケのタケヒメは16ヶ月孕んだ後に双子のクニコリワケとクニチワケをお産みになります。次に、ミヤツワケ、トヨトワケをお産みになります。

38-21 また、ヒウガミユキ（九州行幸）に際して、カミナガのヲタネヒメがオシモ（3番目のキサキの位）になられましてヒフガソツヒコをお産みになります。

38-22 ソラのミハカセヒメは、トヨクニ（トヨクワケ、ソラヒト）をお産みになりまして、後のヒフガキミになります。

38-22 ラシロワケのスハラギ（景行天皇）のミコ達は、ヲ（男）は55人、メ（女）は26人もありまして、総計81人でした。

ヲラウス（モチヒト、ミノ）と、ヤマトタケ（コウス、ハナヒコ）、ヰモキイリヒコ、ヰモノヒメ、ワカタラシヒコ（ワカタリヒコ）、トヨクワケ（トヨクニワケ）の6人がラムコ（主要なミコ）の名を得ます。その他の75人のミコ達はクニ・アガタにと分け治むことになり、スエ（子孫）も多くになります。

38-24 12年（アスス799年）のハツハル（1月）に、ミノのクニのカンホネの娘のトオコの姉妹が美人であるからと、ヲラウス（双子の兄の方、モチヒト）を使わして呼び召しました。ヲラウスのミコは、ミノに至りまして、トオコヒメの姿を見まして密かに召しました。そしてミノに留まってミヤコに帰ろうとしません。ヲラウスはこの年11歳でして、タケ（身長）はヤタ（8尺）ありました。もっ、おさな子（幼児）ではありません。キミは、ヲラウスをお咎めになってミヤコには入れない旨を仰せられました。

12年（アスス799年）アフミツキ（7月）ツクシ（九州）の南部のツマ（都万神社、宮崎県西都市の妻）のクマソが叛（そむ）きます。ミツギ（租税）の納入を拒むのでした。現代で言えば脱税行為をして開き直っている状態です。ツクシからオシテ（文書）を捧げて、ミカリ（反乱平定）を求めてきます。

ハツキ（8月）モチ（満月）にヲシロワケさん（景行天皇）はツクシに出発なさいます。平定の為のミユキです。

ナ（ナガツキ、9月）5日にスハフ（周防、山口）のサハ（佐波）に至ります。この時キミはサ（南）を臨み見ておっしゃいます。

「ザガイキたつは ツツガ（ガの良くない事が山積）かや」

そこで、先遣隊で斥候をお出しになります。先遣隊はオオノ・タケモロと、キのウナテ、モノヘ・ナツハナの3人です。さて、ツクシに渡りますとカンカシヒメが待っていました。カンカシヒメはヒトノカミ（有力者）でして、ヲシロワケさんが先遣隊をお出しになったのを聞いて迎えるの待機です。シツヤマのサカキを抜いて来て飾りを掛けます。カンツエ（上枝）にはヤツカのツルギを掛けます。中枝にはヤタカガミです。下枝にはマガタマを掛けて、トモヘ（傍）にシラハタを掛けて待っていました。

カンカシヒメは、先遣隊のオオのタケモロと、キのウナテ、モノヘ・ナツハナに言います。

「我が類（たぐい）は違（たが）わずアメ（朝廷）の恵みを得てゆきます。ただ、損（そこ）なう人たちが一部に居ますのです。」

ハナタしと、ミミタしと、アサハギと、ツチオリと、ヰオリです。

ハナタしは、ミタリマタカリ【詳細は未詳】名を借りてウサにタムロ（屯）して鳴り響かせています。

ミミタしは、暴力で貪ります。タミから掠め取ったのミケガワのヰ（宴会か？）です。アサハギは、其の類を集めてタカハカワにタムロしています。ツチオリと、ヰオリはミトリノの川の要害に隠れて掠め取っています。それぞれ、カナメ（要）の地に集まってオサ（頭目、かしら）だと勝手に名乗って、暴力行為を周囲に及ぼすので困っています。しかるべくこれをお討ちになってくださいませ」

つまり、私的に頭目を名乗って、税金など公的な上納物を横取りしているのです。後の世にも、平安時代の末期には世が乱れに乱れたのも、記憶に新しいことです。放置しておいたら、戦国時代になります。現代では、マイナンバーの制度も、立て直しのための基礎になりますようです。

カンカシヒメの話によって、オオのタケモロは謀（はかりごと）を立てます。（オオはミシリツヒコの子孫で、太安万侶と同祖でしょうか。ホ31・37 多氏は名前の通りに、各地に繁栄しました）アカキヌのハカマなど引き出物を篤く出してアサハギを召し寄せました。アサハギを通じて仲間を呼びしめると、皆集まって来ました。これをフツク（悉く）殺して収まりました。

ヲシロワケさんも一緒にミユキになりまして、トヨのクニのナガオにカリミヤコを設けます。

メツキ（10月）にはハヤミムラに至ります。ヲサのハヤミツメはミユキを聞いて、自ら迎えて申し上げます。

「ネツのイワヤに二人のツチクモがタムロして困っています。名は、アオクモとシラクモです。」

また、ナオリのネギノには3人のツチクモが居ます。ウチサルと、ヤタと、クニマロです。

これらの五つのツチクモはトモカラ（輩）の力の強い者を集めて置いています。アナカチ（強ち）に召せばイクサになりましょう」

ハヤミツメの話をお聞きになって、ヲシロワケさんは進み得ないでいました。クタミのムラのカリミヤにてのハカリ（会議）でおっしゃいます。

「モロが討たば（正面攻撃をすると）、クモ達は恐れて隠れるだろう」

そこで、ツバキ（椿）を取ってツチと為して、力強い人を選んでツチを以ってヤマを穿（うが）ちて草を分けて、イワヤのクモを打ち殺させました。イナハカワのへ（辺り）はチタ（血が集まり染まった）となりました。

次にウチサルを討たんとして、ツハキイチからネギヤマを越す時にアタ（仇・ウチサル）がヨコヤ（横からの矢）を射てきました。アメ（雨）よりも繁（し）げくて進み得ないので、後退してキワラに戻ります。「フトマニ」のウラナイに抛りまして、ヤタを先に討ちます。ネギノにて、ヤタを討ち破りますと、ウチサルは降伏して来しました。しかし、ヲシロワケさんはお許しになられませんでした。クニマロもウチサル共々滝に身を投げて収まりました。

ソノハシメ【詳細は未詳】カシハオにある石は、長さがムタ（6尺）で、幅はミタ（3尺）、厚さはヒトタヅキ（1尺5寸）ありましたのを、スヘラギ（景行天皇）が祈りますと飛び上がったのでした。そこで、スミヨロシ（カナサキ）と、ナオリカミ（ナオリ・ナカトミ、カスガ）と、モロハ【モロハトミか？】のヤシロ（神社）を建てて祭らしめました。

いよいよ、本命の目的のクマンの平定に向かいます。ネツキ（11月）に至りますカリミヤはヒフガ・タカヤです。

みづるナビ

③ 現在の西都原古墳のところでしよう。妻神社。

シハス（12月）5日に、クマンの攻略のための会議が開かれます。ヲシロワケさんはミコトノリを仰います。

「われ聞くクマンには、アツカヤとオトセカヤの兄弟が差配していると。また、人々を集めて自分を強者の意味のタケルと言っている。矛先を交えて勝るものはない、と。それで、誰一人として一言も言えないで居る。タミ（一般民衆）の痛みであること、かな。」

そこで、ホコ（ツルギ）に抛らず平定する方策を取りたいものだ」

時に、一人のトミ（おそらくは、オオのタケモロか？）が進んで申し上げました。

「クマンにはフカヤとヘカヤの二人の娘が居て、キラキラしくもチチ（父）にイサメ（諫言）を言っているそうです。」

そこで、娘を重き引き出物によって召し入れて、ヒマ（隙間）を伺ってトリコ（捕虜）にしましょう」

スヘラギは「良からん」とおっしゃいますのでした。キヌ（絹）に欺く謀です。二人の娘は、キミのミモト（御許）に召されました。姉のフカヤが申し上げます。

「キミな愁（うれ）ひ、ソ（否定・禁止） はからん」

フカヤヒメは、ツワモノ（兵士）を連れて実家に帰ります。チチのアツカヤに酒を沢山浴びるほど飲ませまして酔わせます。チチのユミツル（弓弦）を切って置いて、ツワモノにチチを殺させたのでした。

スヘラギは、姉フカヤヒメがシム（血筋）を断つのを許せませんでして、憎みて、

妹のヘカヤヒメと、叔父（オトセカヤ）の子のトリイシカヤを結婚させてクニツコに任命しましてクマソの叛乱は終息しました。

なお、ツクシ（九州）の全土に安定を齎（もたら）す為に、6年になるまでの間（景

行12年から17年まで）タカヤのミヤ（西都市 都於郡、黒貫寺の近く。すごい竹藪になっていました。近くには塩水が湧く冷泉の鹿野田神社があります）におわしますのですた。

のちに、ヨシロワケのキミは「われくらゐ」とおっしゃっておられました事が御座いました。

[illegible]

時代の為せる業です。ヲシロワケさまの時代、すでに、はるかにカミヨは遠くになりました。イクメのキミ（垂仁天皇）の御代の最後にタシマモリにカクの木の実を採ってきてもらったのも、「アメのミチ」を慕っての事です。それも、タシマモリが悲観して自殺をしようとした。タシマモリ、ヲシロワケさんには期待を持っていなかったのでしょうか？（タシマモリが帰京したアスス788年は、ヲシロワケさん81歳）

当時の状況は、おそらく誰が当事者になっても、同じでしょうか？あるいは、アマテルカミなら、もう少し違った道行きに導かれたのかも知れません。

今にしてこそですが、願うべきは、国家について、クニトコタチさまからのこと、もっと語れなかったのかな？

わたくしたちが為すべきは現代に、ラシテ文献を以てして記紀の誤謬をやり直すことです。そして、もっと、まともな歴史を真摯に語ってゆくべきだと思つて御座います。